

あっち

こっち

おみのり情報パック

おみじよ

二〇二三年度 広島仏教学院 4月12日スタート
 『仏教・真宗』オンライン 入門講座』



赤井智顕
 京都女子大学非常勤講師
 創聖大学非常勤講師



三浦真証
 鹿台大学非常勤講師



大谷由香
 龍谷大学准教授



青原令知
 龍谷大学教授
 広島仏教学院講師



井上見淳
 本願寺派 司教
 龍谷大学准教授



武田一真
 本願寺派 司教



佐々木義英
 本願寺派 司教



木下明水
 本願寺派 輔教



中村啓誠
 新教授課程専任講師



山上正尊
 本願寺派 輔教



那須公昭
 京都女子大学非常勤講師
 本願寺派聯合中央研究員



米田順昭
 広島仏教学院講師



中村英龍
 広島仏教学院講師



岡本法治
 広島仏教学院講師



千葉聡子
 元朝野新聞記者・雑誌記者



岩崎智寧
 広島仏教学院講師



瓜生 崇
 真宗大谷派玄奘寺住職



牛尾かおり
 本願寺派布教使



宮部督雅
 新教授課程専任講師
 龍谷大学非常勤講師



福間義朝
 新教授課程専任講師



福間義朝
 新教授課程専任講師

2023 冬の号
 VOL.
 I22

おみのり三昧

ある育児冊子に「子どもを『ほめる』しかる」という一見相反する行為は、実は『評価する』という同じ性質をもったものである」とありました。

子どもの将来を考え、小さい頃から善悪をしっかりと教えておかなくては、というのが親心です。誰もがそうして子育てをしているのではないのでしょうか。しかし、冊子には子どもにとって本当に必要なのは、評価ではなく、さまざまに生じる気持ちをそのまま受け入れ、寄り添ってくれる存在だとありました。…(中略)…

ベンチャー企業のある社長さんが、「部下を叱(しか)る時、何に氣をつけていますか」と聞かれた時、「叱ると同時に、必ず『あなたは会社にとってとても大切な人です』と伝えること」と答えました。

この娑婆(しゃは)世界では『評価』もやむを得ないことで、時には必要なことでしょう。しかし、真に人を救うのは、評価ではなく『受け入れてくれる存在』『寄り添ってくれる存在』なのです。「あなたが大切ですよ」というメッセージをしっかりと伝えることが大事なのだと思います。その大事なメッセージが、なかなか伝わりにくくなっているのではないのでしょうか。

お年寄りや病気の方などにとっても、現代は自分自身を大切な存在であると思えなくなり、生きづらいつの世のなかになっているように思います。

お参りにうかがうご門徒のおばあさんで、手術をされた方がいらっしやいます。退院後も、頭が重く手がしびれ、つらい思いをされていて、この先、自分一人で自分の世話ができなくなるくらいだったら死んだ方がいい、とおっしゃいます。

大地のような大悲

兒玉 智文
(岐阜・瑞穂寺住職)

もちろん、家族に迷惑をかけたくないという気持ちからの言葉ですが、一人で自立できないと生きる価値がないという意味にも聞こえ、たとえようなない寂しさを感じます。

「自立」を辞書で調べると、「他の援助や支配を受けずに自分の力で身を立てること。ひとりだち」とありました。自分の力でしっかり生きていくことは素晴らしいことです。しかし、本当に「他の援助や支配を受けずに・・・」なんて可能でしょうか。私たちは気付いていないだけで、日々たくさん命をいただき、他人の世話なしでは生きられない存在なのです。

「立」という字は、人が両手を広げ、両足を地面につけている状態から作られた象形文字だそうです。人と地面が一体になった字であり、つまり、人が「自ら立つ」ためには地面がないと立てないということを表しているのです。「誰の世話にもなっていない」「誰にも迷惑をかけていない」と思っている時、「私は自立している」と慢心になります。反対に、仕事を失ったり、病気になったりして、まさに、他人の助けなしに生活できなくなると、途端に不安になり、情けなくなり、絶望的になったりするものです。

あるお寺に「転んでも転んでも大地の上」という言葉が掲げられていました。「大地」とは阿彌陀如来のことでしょう。人生は悩み苦しむことがたくさんありますが、いつでもどこでも大地が私を支えてくれるように、阿彌陀如来は、私をいつでもどこでもそのまま受け入れ、寄り添ってくださっています。

(本願寺新 2011年2月10日号より抜粋・転載)

冬 のことば

やれさぶ

やれさぶ

あしもぬくめ

てもぬくめ

なむあみだぶで

こころぬくめで

浅原才市

おみじよ探訪

2023年度 広島仏教学院 広仏オンライン講座

◆受講料 一万円／一年間◆



★ 真宗学寮は西区観音にある仏教・浄土真宗の教えを専門的に学ぶ機関。付属の広島仏教学院は、基礎から学べる本山認可の本願寺派僧侶・教師育成の学校（一年制）。

◆昨2021年度より始まった「仏教・真宗オンライン入門講座」（広仏オンライン講座）。今2022年度は400名以上の申し込みがあり、好評のまま2月15日に終了予定。来年度の最新情報を入手したため、

このたびは早期にご紹介。◆来2023年度は、佐々木義英和上(七高僧の教え)・井上見淳和上(蓮如上人のご生涯)・大谷由香先生(比叡山の戒律生活と親鸞聖人)・赤井智頭先生(『歎異抄』に聞く)・宮部誓雅先生(ゼロからの法話入門)の5人が新たにご講義くださいます。4月12日よりスタート。◆その他は本年度と同じで、毎週水曜日13:00-15:30にオンライン会議アプリZoomを用いて、好きな場所から受講可能。講義終了後に「見逃し配信」用のメールが届きますので、好きな時間に視聴可能。これで時差のある海外であっても問題なく学べます(実際に数名いらっしゃいます)。◆今回耳にした便利な利用例ですが、あるお寺さんが、興味のある門徒さん(パソコンなどは苦手)のために、お寺と一緒に視聴なさっているとのこと。その場合でもお寺の方1名の申し込みでよいとのこと。きっと家族あつかいなのでしょう。これはお得ですね。他にもいろんな複数視聴が考えられますが、最大限対応されるとのことなので、どうぞお気軽にご相談ください。◆2月中旬頃より受付開始(7月末締め切り)です。どうぞ下記公式サイトの情報をお見逃しなく(突然の変更等もありえます)。

◆申し込み、詳しい情報は公式サイト(<https://www.gakuryo.jp>)の上段メニュー「広仏オンライン講座」をクリック。◆「真宗学寮」「広島仏教学院」等で検索してください。



『歎異抄にであう～無宗教からの扉～』

(阿満利磨著/NHK出版刊/950円税別)



E テレ「NHK こころの時代」(2022年4月～9月/全のテキスト)。

『歎異抄』の逐条解説ではなく、「念仏とはなにか」「悪人とはだれか」「他力をえらぶ」「不条理を生き抜くために」「慈悲の実践」というテーマに対する答えを『歎異抄』の言葉に求める構成。

日本のある世論調査によると、「何か信仰とか信心とかをもちますか?」という質問に、7割強が「無宗教だ」と答えている。ところが面白いことに、その6割強が「自分は無宗教だけれど、宗教心は大事」と言っている。

宗教学では、宗教を「創唱宗教」と「自然宗教」に分類する。「創唱宗教」とは、教祖・教団・プロの宗教家がいる宗教。「自然宗教」とは、地域や家庭で代々伝承されてきた宗教心を伴う習慣のこと。ご先祖を大切にするとか、お墓参りを欠かさないとか、地域の神社のお祭りに参加するというような「いつの間にか自然に身についた宗教」のこと。

「自分は無宗教だ」と言う人は、「創唱宗教」からは距離を置きながら、「自然宗教」には親しみを覚えている場合が多いのだろう。

「無宗教」を自認する人は、「創唱宗教」に対して構えた姿勢である。その背景にはオウム真理教事件、旧統一教会問題などの影響により、特定の宗教や宗派に経済的に搾取されたくない、また自分の考えを揺さぶられたり、束縛されたくない気持ちがあるのだろう。今の自分の考え方は、問題はあるかもしれないが、自分なりに人生を歩んでいる。だから今の人生観でいいのだ、十分なのだという意識が隠れている。

しかし、人生はいつも平穏であるとは限らない。思いもかけない危機が生じたとき、自然宗教はほとんど無力である。『歎異抄』は、「無宗教」を標榜する精神が行き詰まったときに、新たな視点を提供してくれる宗教的古典である。

私たちが直面する人生の問題は、常識で解くことができない。常識を超えた「智慧」でしか解決できない。無宗教には限界がある。宗教嫌いというだけで、人生の究極的な意味づけを宙に浮いたままにしているのは消極的すぎる。常識の世界だけで思考を停止しているとも言える。それで人生を十分に生き切れるだろうが、物理的には生きられるが、自分が納得して人生を終えていくことは難しいのではなからうか。

そこで、「無宗教」から一歩踏み出すことが大切だと言いたい。「無宗教」をやめるのではなく、「無宗教」的あり方を認めながら、しかし「無宗教」では解決できないような問題を解決する智慧を目指していく。そういう立場を『歎異抄』という書物は非常に鮮明に打ち出している。

「無宗教」的精神とは、仏教でいえば「凡夫」のこと。凡夫とは、自我のために欲望を動員し、他者のことがあまり見え、どこまでも自己の優越を主張するあり方に終始する存在のこと。凡夫にとっては自分が一番大事だが、問題はその自我が不安定なもので、条件次第でどのような動きをするか、本人にも分からない。『歎異抄』はそういう凡夫のための救いを説いている。「無宗教」を自認している人＝「凡夫」ということは、無宗教的精神こそ『歎異抄』の正客と言えるだろう。

おみじりカレンダー

1月

1日(日/祝日) 元旦会
[時間] 6:30 お勤め終了後
年頭の挨拶 御流盃の儀 [会場] 本願寺広島別院本堂

8日(日) 日曜真宗講座
榮俊英 師(本願寺広島別院輪番) [時間] 9:00 [会場] 本願寺広島別院大会議室

11日(水) 關教部慈光会月例法座「日に新たなり」
岩崎智幸師(呉市・西教寺 蔵本通支坊) [時間] 14:00 [会場] 光道会館

15日(日) 親鸞聖人御正忌法要 (1/15~1/16) 安部敏孝 師(安芸高田市向原町・圓光寺) [時間] 15日: 13:30/16日: 6:30/10:00 [会場] 本願寺広島別院本堂

18日(水) 關教部慈光会月例法座「ほんとうのお念仏」
加藤明行師(東広島市・教得寺) [時間] 14:00 [会場] 光道会館

22日(日) 日曜真宗講座
高山泰秀 師(佐伯区湯来町・一松寺) [時間] 9:00 [会場] 本願寺広島別院大会議室

師(熊本県・慈願寺) 藤岡教顯 師(熊本県・明導寺) [時間] 13:30 [会場] 本願寺広島別院本堂 / 關教部慈光会月例法座「罪障功德の体となる」
清胤弘英師(安芸太田町・正覚寺) [時間] 14:00 [会場] 光道会館

5日(日) 日曜真宗講座
田阪法雄 師(東広島市安芸津町・妙専寺) [時間] 9:00 [会場] 本願寺広島別院大会議室

15日(水) 親鸞聖人御命日法要 (2/15~2/16) 福岡制意 師(安芸高田市吉田町・福泉坊) [時間] 15日: 13:30/16日: 6:30/10:00 [会場] 本願寺広島別院本堂 / 關教部慈光会月例法座「如来の智慧と慈悲に抱かれて」
コロナ禍だからこそ聞きたいのちの事実」
堀靖史師(東広島市・光源寺) [時間] 14:00 [会場] 光道会館

16日(木) 広島青年僧侶春秋会オアシス法話 [時間] 18:30 [会場] SIXONE

26日(日) 日曜真宗講座
小林邦顕 師(山県郡北広島町・安養寺) [時間] 9:00 [会場] 本願寺広島別院大会議室

日市市・最禪寺 [時間] 9:00/13:30 (1日のみ朝席なし) [会場] 真宗学寮講堂 / 關教部慈光会月例法座「マインド・コントロール」
吉崎哲真師(佐伯区・西法寺) [時間] 14:00 [会場] 光道会館

12日(日) 日曜真宗講座
櫻井光寿 師(佐伯区湯来町・正向寺) [時間] 9:00 [会場] 本願寺広島別院大会議室

15日(水) 親鸞聖人御命日法要 (3/15~3/16) 朝枝泰善 師(安佐北区狩留家町・順正寺) [時間] 15日: 13:30/16日: 6:30/10:00 [会場] 本願寺広島別院本堂

16日(木) 広島青年僧侶春秋会オアシス法話 [時間] 18:30 [会場] SIXONE

21日(火/祝) 春季彼岸会
武田公裕 師(安芸高田市・善立寺) [時間] 10:00/13:30 [会場] 本願寺広島別院本堂

22日(水) 關教部慈光会月例法座「お浄土のうけとめ方 PART1」
中村英龍 師(佐伯区・最広寺) [時間] 14:00 [会場] 光道会館

26日(日) 日曜真宗講座
花田哲哉 師(東区矢賀・覚法寺) [時間] 9:00 [会場] 本願寺広島別院大会議室

3月

1日(水) 真宗学寮広済会法座 (3/1~3/3) 「親鸞さまのお手紙」
米田順昭 師(廿

2月

1日(水) 豊耳会仏教講座
Seppo-CCQ 那須弘毅

2023 1~3月

スケジュールの内容が、一部変更になる場合があります。電話で確認の上、お出かけください。

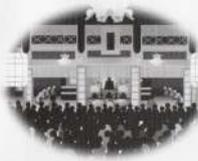
※新型コロナウイルスによる感染症の影響により、各行事が中止、または延期になる可能性がありますので各所にお問い合わせください。

本願寺広島別院 082-231-0302
真宗学寮 082-231-2900
關教部 082-233-4640
SIXONE 広島市中区流川町8-20
流川エイトビル1F

広陵東組の行事

仏の子本願寺参り

子どもたちが本山：京都・西本願寺にお参りさせてもらう行事です。例年、3月下旬に1泊2日で行っていますが、この度の開催は感染状況を鑑みて検討中です。開催の場合は各御寺院へご案内をいたしますので、参加ご希望の方は、お手次のお寺にお問合わせ下さい。



花まつり

4月8日は花まつり。お釈迦様のお誕生日です。例年は講演会、広島駅南口地下広場にて灌仏会、本通りパレードを開催しています。今年の開催は感染状況を鑑みて検討中です。詳しくは、お手次のお寺にお問合わせ下さい。



おみじょクイズ

記念品
進呈!!!

クイズの応募はコチラまで

ハガキに答と、あなたの郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号および本誌の感想、おたよりなどを必ず書き添えてお送り下さい。
宛先：〒730-0811広島市中区中島町7-2
浄圓寺内『おみじょ』読者係
正解者の中から5名の方に記念品を進呈致します。〆切は3月10日(必着)、当選者の発表は次号です。おたよりや質問も、どしどしお寄せ下さい。

なお、お送り頂いたおたよりは、断りなく本誌に掲載することがありますので、ご了承下さい。

前号のクイズの正解

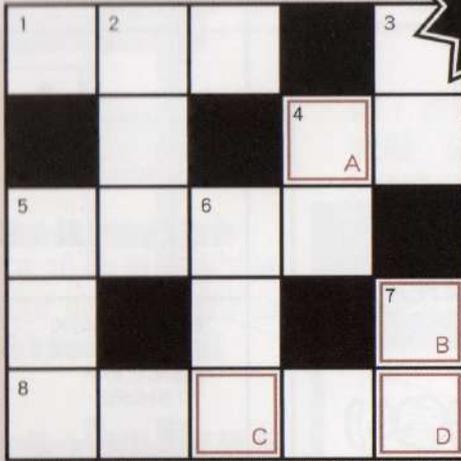
ろうく

当選者(敬称略)2名

南区
榎 泰

南区
三樹 昭子

Q ⇒右のクロスワードパズルを完成させて下さい。A～Dの二重枠に入った文字をならべかえてできる言葉は何でしょう?



● ヨコのカギ ●

1. 地中から産出する液体の燃料。
4. 土を小高く積み上げて築いた長い堤。堤防。
5. 葉として用いること。
8. 表と裏の二つの面。両方の面。

● タテのカギ ●

2. 力強く立ち向かってゆく精神力。「一がこもる」
3. 心の中で期待している物事。頼り。「一にする」
4. 首・手足・しっぽ以外の体の部分。
5. 鋼(はがね)の表面に細かい凹凸がつけられた切削工具。研磨する。
6. 物事の成り行きや結果について前もって見当をつけること。「勝敗一」
7. よいこと。道義にかなっていること。

ヒント

七高僧の一人
中国の僧侶。正信
像の後半。音が高く
なるところ。。
「〇〇〇〇」
〇〇〇〇 独明
〇〇〇〇 正意

答え.. □□□□

A

編集後記

大河ドラマ『鎌倉殿の十三人』、親鸞聖人が実際に生きておられた時代である平安末期〜鎌倉初期が描かれた。皆さまがこの号を御覧になる頃にはもうすでに最終回を迎えているが、一体どうだったのだろうか。聖人の得度に立ち合ったとされる慈円僧正をはじめ、ゆかりとされる人物や場所が多く出てきており、本筋とはまた違った楽しみ方をさせてもらった。そんなこの度のドラマの中で、仏師・運慶が主人公である北条義時に「お前、悪い顔になったな。だが、まだすくいはある。悩んでいる顔だ。おのれの生き方に迷いがある。その迷いがすくいなのさ」という印象的なセリフがあった。振り返ってみると登場人物たちは様々な葛藤を抱えていた。例えば浄土真宗にとってはあまりいいイメージのない後鳥羽上皇。彼は源平合戦の最中で失われた三種の神器を持たない天皇として即位しており、そのことから常に強く正しく、自分の存在を周囲に示し続けなければならなかったのだろう。その苦しみは私にはきつとはかりしれない。ドラマに出てきた全ての人が、それぞれに正義や信念があり、単に善悪で語れない悩みにつながっていた。生きるとは、そんな自分でさえ気付かない多くの苦悩を抱えていくことである。それでも私はいのちを精一杯生きることしかできない。あくまでフィクション。数話のち再会した際、「変わったな。迷いのない顔。つまらん顔だ」という運慶に義時は「お前は俗物だ。だからお前の作るものは人の心をうつ」と仏像作成を依頼することになる。

(平)